

29P-am237

ミカン科アワダン *Melicope triphylla* の新規プレニロキシフラボン

○橋本 哲弥¹, 木下 武司¹ (¹帝京大薬)

【目的】ミカン科植物はプレニルクマリン、ポリオキシフラボンのほか、キノリン・キノロンなどのアルカロイドなど多様な二次代謝物を含むことが知られ、医薬シード源としてこれほど適した分類群はあまり例を見ない。アワダン *Melicope triphylla* は熱帯に分布の中心をもつミカン科の一種であり、これまでに多くの研究報告がある。ミカン科植物の特徴として、ゲッキツ *Murraya paniculata* に代表されるように、多くのケモタイプがあつて、産地ごとに含有成分相が異なる例の多いことが挙げられる。演者らはこの観点に立って、八重山諸島に豊産するアワダンの根部の成分研究を行い、その化学的多様性の解明を試みたところ、文献未記載の物質を得たので報告する。

【結果】西表島で採集したアワダンの根のメタノール抽出物を各種クロマトグラフィによって分離を試み、7種の物質 AWA01, AWA02, AWA05, AWA06, AWA08, AWA11, AWA13 を純品として得ることができた。このうち、AWA01, AWA02, AWA05, AWA06, AWA08, AWA13 は文献に記載のある物質で、スペクトルデータなどの比較によってそれぞれ Isokanugin, 3,5,8-Trimethoxy-6,7:3',4'-bis(methylenedioxy)flavone, Meliternatin, Imperatorin, Melicophyllone B, Kokusaginine と同定された。AWA11 は新規成分であり、HMQC, HMBC, NOE などにより、右の構造を有することが明らかとなった。

